賢く　優しく　逞しく

１月号・令和６年１月９日発行

本校ＵＲＬ　http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/　武蔵村山市立第五中学校

春よ来い

校　長　榎戸　千代子

令和６年が始まりました。新年早々に「能登半島地震」が起き、被災地のニュースが流れるたび、胸の痛む思いです。改めて防災教育や安全指導の大切さを痛感します。防災意識をより一層高め、実践的な避難訓練を行ってまいります。

さて、二十四節気では、１月６日（土）が「寒の入り」、２月３日（土）が「寒の明け」です。特に「大寒」（１月２０日）の頃は、寒さが一番厳しい時期とされています。この時期を乗り越えると、春の始まりを意味する「立春」（２月４日）となります。受験期を迎えている３年生の皆さんは、今が一番大変な時だと思いますが、目標突破に向けて全力を注いでください。「春」は、もうすぐそこまで来ています。

今年の「箱根駅伝」は、青山学院大学が連覇をねらう駒澤大学から王座を奪還し、２年ぶり７回目の総合優勝で幕を閉じました。１９２０（大正９）年から始まった大会は、今回１００回目を迎え、記念大会として出場枠を３校増やし、２３校で競われました。

数年前、母校の応援から始まった駅伝観戦も、毎年数々のドラマ、名勝負を見る中で、今ではすっかり駅伝の虜（とりこ）となってしまいました。今年は久しぶりに沿道に出かけ、中継所のすぐそばで選手たちの到着を待ちました。

「あと５分ほどで通過します。」とアナウンスする宣伝カーが通り過ぎた頃、道路には中継所に向かって誘導するコーンがいくつも並べられ、待ち受ける観衆、大会関係者、警察官の人たちに緊張が走りました。やがて、次々に各校の選手が最後の力を振り絞って目の前を通過していきました。運営管理車からは、「行ける。行ける。」、「あきらめるな。」、「自分のために走り切れ！」、「１秒でも前へ進め！」など、監督の熱い激励の言葉が飛び交います。仲間の汗が染み込んだ母校のタスキを背負い、力を振り絞って必死に走っている選手たちにとって、監督や観衆の励ましの声は大きな力になるといいます。私も小旗を振り、走ってくる選手たちに大声でエールを送りました。

箱根までの道のりは区間により、平坦なコース、起伏のあるコース、山登りのコースなど、様々なコースがありますが、選手たちにもスピード型、スタミナ型、バランス型など様々なタイプがあるようです。今回のレースを見て、それぞれのコースで自分のペースを崩さず、自分の強みを最大限に発揮することが結果につながると感じました。また、各監督のコメントの中に、走るという技術を磨く前に、「当たり前のことをコツコツときちんとすること」、「食事、睡眠、全てを整えること」、「時間を守り、整理整頓すること」などがあげられていました。いざというときに力を発揮するには普段からの生活態度がとても大事だということでしょう。五中生の皆さんも、自分の夢や目標をかなえるために「規則正しい生活をする」、「当たり前のことをコツコツやって努力する」などを念頭において、今年一年大きく飛躍してほしいと思います。

ところで、昨年末の１２月１０日（日）に本市でも第５０回市民駅伝競走大会が開催されました。今回はコロナ禍以前にもどり、総合体育館からスタートして、青梅街道を走るコースで行われました。本校は、中学生男子の部で陸上競技部２チームと中学生女子の部で陸上競技部１チームが、また一般の部で教員チーム（佐々木、多嘉良、市川、福島、今田、吉田教諭）が出場しました。中学生の部では、男女とも陸上競技部が見事優勝や第３位など上位入賞を果たし、大活躍しました。教員チームは佐々木教諭が第１区、区間５位の走りで力走し、６人でたすきをつないで完走しました。

今年も駅伝と同様に教職員一同「チーム五中」として団結し、子供たちのために全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

明るいあいさつ・みんなの笑顔　　第五中学校区（二小・八小・十小・五中）